

2026 IPU STUDENT HANDBOOK

履修ガイド
(大学院生用)



学籍番号

氏 名

2026

履修ガイド

(大学院)



目次

1. スポーツ科学研究科の基本方針と教育研究活動	1
(1) スポーツ科学研究科の基本方針.....	1
(2) 教育研究活動	4
2. 本大学院以外の学修成果の単位認定等	7
(1) 入学前における他大学院等での既修得単位等の認定	7
(2) 在学中に他大学院等で履修した単位等の認定	7
(3) 他大学院等における研究指導	7
3. 長期履修制度	7
4. 資格（専修免許状）取得.....	8
5. 研究指導担当教員一覧	1

1. スポーツ科学研究科の基本方針と教育研究活動

(1) スポーツ科学研究科の基本方針

(a) 設置の趣旨

建学の精神「挑戦と創造の教育」のもと、教育理念として「スポーツと教育の融合」を掲げてきたIPUが構想するスポーツ科学研究科（以下「本研究科」という。）では、競技スポーツや身体活動について、人文・社会科学的及び自然科学的な分析と研究の展開により、スポーツの教育的意味、身体パフォーマンスの向上、スポーツDX、スポーツによる地域創生や健康増進等を追究します。

IPUは設立以来、スポーツによる教育を重要な柱としており、本研究科においても、これまで蓄積された知見や技術を基盤として、スポーツに関わる多様な研究・教育を重視するものです。

スポーツは現代社会において、政治、経済、流通、環境、情報、DX、産業等と大きく関わり、人間社会に不可欠の役割が期待・指摘されています。そのためには、現場においてスポーツを専門的立場から実践・理解できることが求められます。IPUではスポーツを多様な立場から研究することで、スポーツに関わる様々な職域で必要とされる専門的力量を備えた高度専門的職業人の養成を目指します。

(b) 養成する人材像

本研究科では、多様化するスポーツに関連した社会のニーズに応えられる高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、スポーツ科学に基づいた新たな知や価値を創り出し、既存の枠を超えて活躍する高度専門的職業人を養成します。

深い学識を持ちリーダーシップを持った実践的な指導者・教育者として卓越した能力を発揮する専門人材、幅広い研究に触れることで培われる探究能力や研究力を支えに産業界や行政等で活躍できる人材を想定しています。

具体的には、本研究科で養成する人材としては、実践力を兼ね備えた中学校・高等学校専修免許をもつ教員、高度なコーチングスタッフ、競技力向上を支える情報・科学スタッフ、部活動地域移行や自治体における「スポーツによる地方創生・まちづくり」に関わる専門スタッフ等が挙げられます。さらには、健康スポーツ関連産業、介護関連産業に、高度な知識、能力あるいは技術を有した専門的職業人等、多彩な場で活躍できる人材を送り出すことが期待されます。

(c) 三つのポリシー

(i) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー “DP”）

本研究科の課程を修め、30単位以上の単位を修得し、修士論文または特定課題研究を提出して最終試験に合格し、かつ以下の資質・能力を身に着けた学生に対し、修士（スポーツ科学）の学位を授与します。

- DP1 スポーツ科学の立場から、人間の身体と運動のメカニズム、およびスポーツの文化的・教育的な価値などに関して深い知識と洞察力を持つとともに、高度な運動指導の技能を修得していること。
- DP2 地域や社会におけるスポーツの諸課題に対して、スポーツ科学に立脚した論理的思考により分析し、その解決方法を的確に見出すことのできる能力と発信力を修得していること。
- DP3 スポーツ科学研究を基軸とした倫理観、責任感を持ち、高度専門的職業人としてリーダーシップを発揮して未来社会に貢献する意志と実践力を修得していること。

(ii) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー“CP”）

本研究科では、研究科の定める課程を修めてディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得できるよう、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

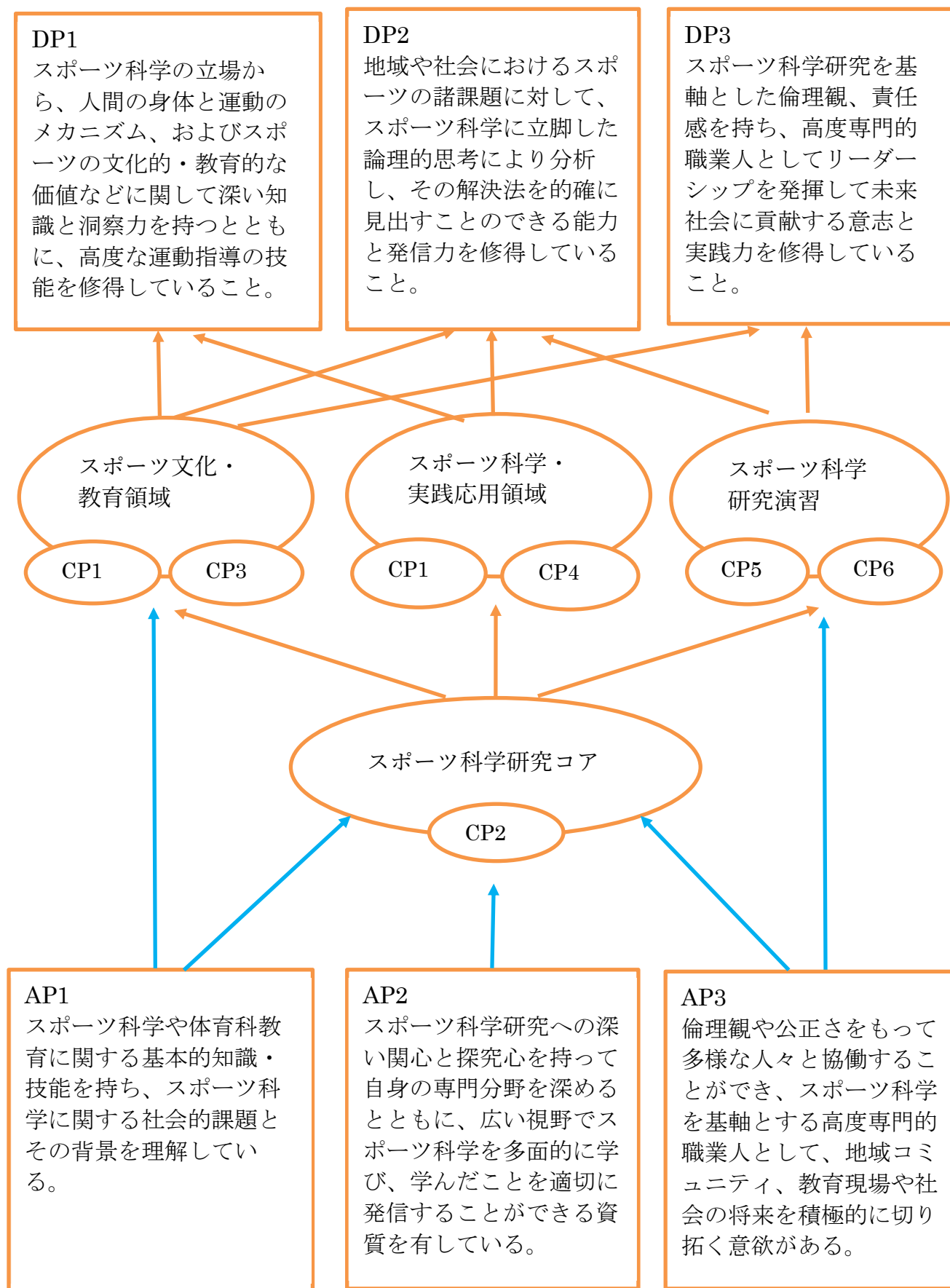
- CP1. 授業科目については、スポーツ科学に関する高度で幅広い知識や技能を修得させるためにスポーツ科学の各学問領域（スポーツの人文科学・社会科学・自然科学）に関する必要な専門科目を配置する。
- CP2. 入学年次のコア科目ではスポーツ科学の意義について学ぶとともに、スポーツ科学研究の方法論について、文化・教育的視点と実践的・応用的視点を学び、多様な研究の視点を統合させながら、複眼的思考を修得する。
- CP3. スポーツ文化、地域スポーツ研究、スポーツ心理学、スポーツ教育やスポーツ倫理などのスポーツ科学の文化・教育的側面を学ぶことで、高度専門的職業人としての高い倫理観、責任感およびリーダーシップを修得する。
- CP4. コーチングやデータサイエンス、バイオメカニクスなどのスポーツ科学の応用部門について学ぶことで、実践力、分析力、論理的思考力を修得する。
- CP5. スポーツ科学研究演習で修士論文または特定課題研究作成に必要な調査・研究方法について修得する。
- CP6. スポーツ科学研究演習と修士論文または特定課題研究の作成を通して、課題解決能力と高度専門的職業人として社会の多様な場で活躍できる汎用的知識や実践力を修得する。

(iii) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー“AP”）

社会における課題解決のためにスポーツ科学を活用しようとする、以下のような人材を広く求めています。

- AP1. スポーツ科学や体育科教育に関する基本的知識・技能を持ち、スポーツ科学に関する社会的課題とその背景を理解している。
- AP2. スポーツ科学研究への深い関心と探究心を持って自身の専門分野を深めるとともに、広い視野でスポーツ科学を多面的に学び、学んだことを適切に発信することができる資質を有している。
- AP3. 倫理観や公正さをもって多様な人々と協働することができ、スポーツ科学を基軸とする高度専門的職業人として、地域コミュニティ、教育現場や社会の将来を積極的に切り拓く意欲がある。

【資料1】三つのポリシー関連図



(d) 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

本研究科では、多様化するスポーツに関連した社会のニーズに応えられる高度な専門知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、スポーツ科学に基づいた新たな知や価値を創造し、既存の枠を超えて活躍する高度専門的職業人を養成することを目的とすることから、以下のような名称とします。

研究科名 : スポーツ科学研究科

同英訳 : Graduate school of Sport Science

専攻名 : スポーツ科学専攻

同英訳 : Master's Program in Sport Science

学位名 : 修士 (スポーツ科学)

同英訳 : Master of Sport Science

(2) 教育研究活動

(a) 教育方法

カリキュラム・ポリシーに基づいて、本研究科では2つの領域を設定する。1つはスポーツの人間的活動の意義、価値に主眼を置いた人文・社会科学的領域である「スポーツ文化・教育領域」で7科目（選択必修、各科目2単位で8単位以上履修）を配置し、もう1つは現場の活動及びそれを下支えするのに不可欠な知識を研究する自然科学的領域である「スポーツ科学・実践応用領域」で9科目（選択必修、各科目2単位で12単位以上履修）を配置します。

また、これら2領域の学問を深め、スポーツの現場に応用すべき高度な知識を身に着けるため、基礎的科目として「スポーツ科学研究コア」を設定し、2科目（必修、各2単位で計4単位履修）を配置します。

さらに、修士論文又は特定課題研究の作成に関わって「スポーツ科学研究演習」を設定し、スポーツ科学研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの3科目（必修、各2単位で計6単位履修）を配置します。こうした演習を通じて、スポーツに関する緻密な分析を通じた、スポーツの現場に生きる質の高い修士論文又は特定課題研究の作成を目指します。

カリキュラムは次の表のとおりとします。

【資料 2】教育課程表（スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻（修士課程））【2025年度入学生対象】

科目区分	授業科目の名称	授業	配当		単位数	
		種別	年次	学期	必修	選択
スポーツ科学研究コア	スポーツ科学特論	講義	1	前期	2	
	スポーツ科学研究方法論	講義	1	後期	2	
	小計（2 科目）	2	—	—	4	0
スポーツ文化・教育領域	スポーツ文化特論	講義	1・2	前期		2
	スポーツ史特論	講義	1・2	後期		2
	スポーツ倫理学特論	講義	1・2	前期		2
	スポーツ教育学特論	講義	1・2	後期		2
	スポーツ運動学特論	講義	1・2	前期		2
	地域スポーツ特論	講義	1・2	前期		2
	スポーツ心理学特論	講義	1・2	前期		2
	小計（7 科目）	7	—	—	0	14
スポーツ科学・実践応用領域	スポーツデータサイエンス特論	講義	1・2	後期		2
	スポーツバイオメカニクス特論	講義	1・2	前期		2
	アダプテッドスポーツ学特論	講義	1・2	後期		2
	身体活動情報分析学特論	講義	1・2	前期		2
	運動生理学特論	講義	1・2	前期		2
	コーチング学特論Ⅰ（個人種目）	講義	1・2	後期		2
	コーチング学特論Ⅱ（集団種目）	講義	1・2	後期		2
	コーチング学特論Ⅲ（走・跳・投）	講義	1・2	前期		2
	トレーニング学特論	講義	1・2	後期		2
	小計（9 科目）	9	—	—	0	18
スポーツ科学研究演習	スポーツ科学研究演習Ⅰ	講義	1	前期	2	
	スポーツ科学研究演習Ⅱ	講義	1	後期	2	
	スポーツ科学研究演習Ⅲ	講義	2	前期	2	
	小計（3 科目）	3	—	—	6	0
合計（21 科目）		21	—	—	10	32
修了要件及び履修方法						
スポーツ科学研究コア領域 4 単位、スポーツ科学研究演習 6 単位は必修。 スポーツ文化・教育領域から 8 単位以上、スポーツ科学・実践応用領域から 12 単位以上を選択する。 30 単位以上の単位を修得し、修士論文又は特定課題研究を提出して最終試験に合格することが修了要件。						

(b) 研究指導方法

入学直後に行われるガイダンスに参加して、研究計画や研究の進め方について理解します。研究指導教員等と面談を行い、研究指導教員と副研究指導教員を決定し、研究指導教員の下で修士論文・特定課題研究を開始します。研究指導教員との個別ミーティングを重ね、研究の進捗状況の確認と中間報告会に向けての必要事項について指導を受けます。中間報告会では主査及び副査から論文の改善点等のコメントを受け取り、論文の修正を行っていきます。学位論文（修士論文又は特定課題研究）については、1月上旬に提出し、主査1名と副査2名の審査体制により審査が行われます。

【資料3】修士課程研究指導スケジュール

学 年	時 期	事 項
第1学年	4月上旬	入学・履修ガイダンス（履修計画・研究計画・研究の進め方） 研究指導教員決定（副研究指導教員も同時に決定） なお、修士論文に替えて、特定課題研究を希望する者は研究指導教員並びに副研究指導教員と協議し、その旨履修登録を行う 「スポーツ科学研究演習Ⅰ」履修登録
	9月上旬	「スポーツ科学研究演習Ⅱ」履修登録
	9月中旬	修士論文・特定課題研究のテーマ案を大学院事務室に提出
	9月下旬	研究指導教員の下で修士論文・特定課題研究を開始
	11月上旬	研究指導教員との個別ミーティング（研究の背景・目的、現状分析、方針の仮説などを作成）
第2学年	4月上旬	履修ガイダンス（研究の進め方と研究成果のまとめ方） 副査2名の最終決定 「スポーツ科学研究演習Ⅲ」履修登録
	7月下旬	修士論文・特定課題研究中間報告会（主査、副査は改善点などのコメントを提出）
	12月下旬	修士論文・特定課題研究提出
	1月中旬	最終試験、修士論文発表会
	1月下旬	修士論文の修正版・抄録の提出
	3月上旬	修士学位授与

2. 本大学院以外の学修成果の単位認定等

(1) 入学前における他大学院等での既修得単位等の認定

研究科委員会において教育研究上有益と認めたときは、学生が本大学院入学前に他の大学院（外国の大学を含む）等において履修し修得した単位（入学前に本大学院において科目等履修生として修得した単位を含む）を本人の申請に基づき、在学中に他大学院等で履修した単位等の認定単位と合わせて10単位を限度として、本大学院における授業科目の履修とみなし、単位を認定することができます。この制度は、第1年次に入学した学生を対象に行いますので、入学年度当初(4月中)に大学院事務室に申し出て、手続きを行ってください。

(2) 在学中に他大学院等で履修した単位等の認定

研究科委員会において教育上有益と認めたときは、他の大学院等との協議に基づき、学生が本大学院在学中に他の大学院（外国の大学院を含む）等において履修し修得した単位等を、本人の申請に基づき、修了に必要な単位として、10単位を超えない範囲で本大学院における授業科目の履修とみなし、単位を授与することができます。

(3) 他大学院等における研究指導

研究指導担当教員が教育研究上有益と認めたときは、研究科委員会は、他大学院又は研究所等とあらかじめ協議の上、当該大学院又は研究所等において研究指導を受けることを許可することができます。研究指導を受ける期間は、1年以内です。

3. 長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している等の事由により、2年間の修業年限では履修が困難だと認められる学生について、2年を超えて計画的に履修することを可能にする制度です。長期履修制度を利用する場合、学費は在籍期間に応じて分割納入することができます。希望者はあらかじめ研究指導教員に相談し、承諾を得てください。手続き等については、長期履修制度規程(学生便覧)を参照してください。

4. 資格（専修免許状）取得

本研究科において取得できる資格は次のとおりです。

- 中学校教諭専修免許状（保健体育）
- 高等学校教諭専修免許状（保健体育）

【資料4】中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）対象授業科目

免許法施行規則に定める科目 区分等		左記に対応する本学で定められた開設授業科目			備 考
科 目		授業科目名	単位数		
			必修	選択	
教科及び教科 の指導法に関 する科目	教科に関する 専門的事項	スポーツ科学特論	2		必修科目 4 単位 および選択科目 から20単位選択 して履修
		スポーツ科学研究方法論	2		
		スポーツ文化特論		2	
		スポーツ史特論		2	
		スポーツ倫理学特論		2	
		スポーツ教育学特論		2	
		スポーツ運動学特論		2	
		地域スポーツ特論		2	
		スポーツ心理学特論		2	
		スポーツデータサイエンス特論		2	
		スポーツバイオメカニクス特論		2	
		アダプテッドスポーツ学特論		2	
		身体活動情報分析学特論		2	
		運動生理学特論		2	
		コーチング学特論Ⅰ(個人種目)		2	
		コーチング学特論Ⅱ(集団種目)		2	
		コーチング学特論Ⅲ(走・跳・投)		2	
		トレーニング学特論		2	

※中学校教諭専修免許を希望する場合は中学校教諭一種免許（保健体育）が必要。

※高等学校教諭専修免許を希望する場合は高等学校教諭一種免許（保健体育）が必要。

※対象科目は必修の2科目と選択必修科目の14科目で、選択必修科目から20単位を選択します。すべてカリキュラム内に含まれており、修了要件を満たせば資格要件も満たされます。

5. 研究指導担当教員一覧

行	氏名	学位	研究領域	学問分野	担当科目	メールアドレス
あ	浅井 武 (教授)	博士 (工学)	スポーツ科学・ 実践応用領域	・スポーツバイオメカニクス ・スポーツコーチング学 (集団種目)	・スポーツ科学特論 ・スポーツ科学研究方法論 ・スポーツバイオメカニクス特論 ・コーチング学特論Ⅱ (集団種目) ・スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ	ta.asai@ipu-japan.ac.jp
か	梶谷 亮輔 (講師)	博士 (コーチング学)	スポーツ科学・ 実践応用領域	・コーチング学 (走・跳・投)	・コーチング学特論Ⅲ (走・跳・投)	r.kajitani@ipu-japan.ac.jp
さ	真田 久 (教授)	博士 (人間科学)	スポーツ文化・ 教育領域	・スポーツ史 ・スポーツ人類学	・スポーツ科学特論 ・スポーツ科学研究方法論 ・スポーツ文化特論 ・スポーツ史特論 ・スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ	h.sanada@ipu-japan.ac.jp
	佐野 淳 (教授)	博士 (コーチング学)	スポーツ文化・ 教育領域/ スポーツ科学・ 実践応用領域	・スポーツ運動学 ・コーチング学 (個人種目)	・スポーツ科学特論 ・スポーツ科学研究方法論 ・スポーツ運動学特論 ・コーチング学特論Ⅰ (個人種目) ・スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ	a.sano@ipu-japan.ac.jp
	品田 直宏 (講師)	修士 (体育科学)	スポーツ科学・ 実践応用領域	・コーチング学 (走・跳・投)	・コーチング学特論Ⅲ (走・跳・投)	n.shinada@ipu-japan.ac.jp
た	友添 秀則 (教授)	博士 (人間科学)	スポーツ文化・ 教育領域	・スポーツ教育学 ・スポーツ倫理学	・スポーツ科学特論 ・スポーツ科学研究方法論 ・スポーツ倫理学特論 ・スポーツ教育学特論 ・スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ	h.tomozoe@ipu-japan.ac.jp
な	西嶋 尚彦 (教授)	教育学博士	スポーツ科学・ 実践応用領域	・スポーツデータサイエンス ・身体活動情報分析学	・スポーツ科学特論 ・スポーツ科学研究方法論 ・スポーツデータサイエンス特論 ・身体活動情報分析学特論 ・スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ	t.nishijima@ipu-japan.ac.jp

行	氏名	学位	研究領域	学問分野	担当科目	メールアドレス
---	----	----	------	------	------	---------

ま	宮本 彩 (講師)	博士 (スポーツ健康科学)	スポーツ科学・ 実践応用領域	・アダプテッドスポーツ学	・アダプテッドスポーツ学特論	a.miyamoto@ipu-japan.ac.jp
や	吉岡 利貢 (教授)	博士 (体育科学)	スポーツ科学・ 実践応用領域	・体力学 ・トレーニング学	・スポーツ科学特論 ・スポーツ科学研究方法論 ・運動生理学特論 ・トレーニング学特論 ・スポーツ科学研究演習Ⅰ～Ⅲ	t.yoshioka@ipu-japan.ac.jp